

『疾風の女子マネ！』

まはら 三桃／著 小学館（2018年）

高校生になった咲良は「男子にちやほやされたい」という理由で、運動部マネージャーになりたいと思っています。でも、多忙や我慢はイヤなので、強豪チームはパス。心地よくお姫様になれそうな所を探しています。髪を整えマスカラとリップを塗り直し、さあ見学に行くぞと歩き始めた時、目の前で風が…。なんか、かっこいいんですけど。迷わず咲良はそのユニホームの背中を追っかけ、陸上部に入部します。そこで見た4×100リレーのすごさに感動し、全力でマネージャー業に取り組みます。



『ホケツ！』

小野寺 史宜／著 祥伝社（2018年）

高校生の大地は中学からサッカーを続けているが、一度もレギュラーになった事がない。3年にもなると、レギュラーの取れないメンバーは辞めていくが、大地は辞めない。なぜと聞かれたら上手く説明できないけれど、サッカーが好きなのだ。育て親である伯母さんや、12年間一度も会わなかった父親との突然の再会、大学受験、サッカー部内での立ち位置など、自分と向き合いながらメンバーと共に少しずつ成長していく。ずっと補欠だった大地の最後の試合、全国高校サッカー選手権大会県予選一次トーナメントが始まった。



『ABC！曙第二中学校放送部』

市川 朔久子／著
講談社（2015年）



先輩が卒業して、曙第二中学校放送部は部長の古場とアナウンス担当のみさとの2人になってしまった。新入部員勧誘の部活紹介も盛り上げることが出来ず、このままいくと来年には放送部がなくなってしまう危機に陥っている。そこで放送部の認知度をあげるため、お昼の放送を開始した。放送部が認知されるようになると念願の新入部員、珠子が加入し、さらに転校生の葉月と野球部を怪我で休部している新納も参加してくれるようになった。部員が増えた放送部は放送コンクールを目指す。

『園芸少年』

魚住 直子／著 講談社（2009年）

合理的な性格の篠崎は、高校では部活動に所属しないと決めていましたが、ひょんなことから一見怖そうな大和田とともに園芸部に入部することとなりました。ある日、園芸部の活動場所で箱をかぶって学校に通う庄司に出会い、大和田の誘いで庄司も園芸部の活動に参加することとなります。3人は園芸のことを学びながら様々な植物を育てるとともに、友情を育み、自分自身とも向き合っていく。人や物事に無関心なことが多かった篠崎、怖そうな見た目の大和田、箱をかぶり続けている庄司、それぞれに起こる変化にもご注目ください。



『ダンス部ノート』

石原 久佳／著
ベストセラーズ（2019年）



みなさんは部活に入っていますか？この本では「ダンス部」に入っている高校生たちの物語が綴られています。ほかの部活と同様に、ダンス部も大会で優勝することを目指しています。大会では150秒という決められた時間で最高のパフォーマンスができるように日々練習に取り組んでいます。しかし、先生と一緒に練習する高校、自分たちが主体となって練習する高校など、その練習方法は各学校によって様々です。練習の中でぶつかり合いながら全員が納得するものを作り上げていく様子は文章からでもひしひしと伝わってきます。

『朝原宣治の最速メソッド』

トップアスリート直伝スポーツの教科書』
朝原 宣治／著 柘出版社（2014年）

北京オリンピック・4×100Mリレーで銅メダルを獲得した、朝原宣治さんが走りの極意を教える本書。「少しでも楽しみながら続けていけば、スポーツは必ず上達する」というのが朝原さんの信条です。本書では、短距離走における基本のトレーニングや、イメージと感覚の連動トレーニングなど、基礎から発展までの練習メニューが紹介されています。陸上部の方にはもちろん、運動が苦手だけど克服したいと思っている方にも手に取ってほしい一冊です。

